

委員会会議録

(社)滋賀県トラック協会

会議名	平成22年度 第4回「トラックの日」の事業実行委員会
開催日時	平成22年7月13日(火) 13:35~15:50
開催場所	滋賀県トラック総合会館 3F「視聴覚室」
出席者	委員16名、会長、事務局4名

協議内容

定刻より5分遅れて開会。開会にあたり岡田会長から挨拶があり、続いて辻実行委員長から挨拶があった後、辻実行委員長が議事進行を行った。

(1) エコ・セーフティドライブコンテストの反省について

外村部会長より去る7月8日に行われたエコ・セーフティドライブコンテスト部会での内容について資料1に基づき説明があった。

その他、次のことを述べられた。

- ・ 今年度は大変多くの参加者がマイスターを取られている。採点基準はしっかり守られているが誰でもがマイスターを取れるというのもどうかと思う。採点基準をもう少しレベルアップしてはどうか。
- ・ 当日は雨が降っており、都合で昼食を予定より早く取ってもらい休憩時間も短くした。
- ・ 全体的には概ね上手くいった。

との報告があった。

続いて、事務局・大橋参事から補足が次により行われた。

- ・ 今年度はレベルが上がったのか多くのマイスターが生まれた。
- ・ 4t部門のエコ走行では、昨年の反省を踏まえスタート地点までの約200mを試走することが出来たのが良い結果を生み出している。
- ・ 展示については、当日は雨が降っており見学者が少なかった。見学者に記念品か何かを出してはどうかと思う。
- ・ 当日は兵庫県トラック協会職員が2名見学に来てもらったが対外的なアピールも今後検討していく必要がある。
- ・ 次年度の開催日程は5月20日頃から6月末で行ってはどうか。

次に出席委員より意見があった。

- ・ 今年度は多くの参加者がマイスターを取られているが、スラロームでポールを倒したり、特にバック付けで停止版を倒した選手でもマイスターを取っているはどうかと思う。担当者からの報告がちゃんと試験官に伝わっていなかったのではないか。
- ・ 当日は雨天であったこともあり選手は昼食を早く取ることになり、まだ競技中であったが競技終了の選手から順に食事を取りに行った。
- ・ 展示コーナーの見学者は少なかった。PR方法を考える必要がある。
- ・ 選手宣誓で緊張から声が小さかった。台本を渡してはどうか。
- ・ 当日は1名、無断欠席者があった。無断欠席の場合はペナルティとして次年度申込があっても出場出来ないなどの処置をするべきである。
- ・ この件について後で事業者を確認をしたところ、配車担当者がこのコンテストに参加することを知らずに仕事をさせていたとのことであった。
- ・ 実施結果は昨年度、当日閉会式の場で報告したが、今年度は審査会を開き、又本日の実行委員会を経て結果を出すことになっているが、昨年のように当日結果報告は出来ないかとの声があった。
- ・ 結果報告については、昨年度、参加事業者から当日発表は止めて欲しいとの要望を踏まえ今年度は行っている。
- ・ 先程、選手宣誓の意見が出たが、選手宣誓は必要かどうか検討すべきである。
- ・ 特にバック付けで停止版を倒した選手でもマイスターを取っており、担当者からの報告がちゃんと試験官に伝わっていなかったのではないか、との意見があったがしっかり採点しないといけない。
- ・ 実施結果は当日ではなくても、もう少し早く出すべきである。
- ・ 展示コーナーの見学者が少ないのは協会側だけの問題ではなく、出品者にももう少し工夫をしてもらう必要がある。
- ・ 資料2-1の一般の人からのアンケートをヒントにして改善をしていくべきで、我々の自己満足だけでは駄目である。一般の人がこのコンテストや我々の活動について理解をしてもらうことが必要である。
- ・ バック付けで停止板に接触しても-40点であり、マイスターを取れる可能性がある。また、要綱ではバック付けはバックの途中であれば2回のやり直しが出来ようになっている。
- ・ 特にバック付けで停止板に接触すれば、その場で競技を中止するなど要綱に変更したり採点基準を見直す必要がある。
- ・ マイスターやゴールドマイスターの人数を求めるのか、しっかりレベルを上げていき真のマイスターを求めるのか、検討する必要がある。
- ・ セーフティの競技についてはドライバーコンテストの全国大会を基準に採点を行っているが、今後、特にバック付けで停止板に接触した場合についてクレフィール湖東と打合せを行い早い目に採点基準の見直しを進めるべきである。

- ・ 選手宣誓については、今年度は内容を暗記したと聞いている。昨年度のように目録を読み、読んだ後、会長に目録を手渡しても良い。今後、選手宣誓を行うかどうか検討していくべきである。
- ・ 選手宣誓を行った方が場が締まるので行った方が良い。

・・・等の発言を受けて、岡田会長は、早急にバック付けやスラローム運転についてクレフィール湖東と打合せを行い、要綱や採点基準の見直しを行って欲しい。又、選手宣誓については行った方が、これからコンテストに参加するぞ、という意気込みも出てくるので宣誓は行って欲しい。宣誓の内容を暗記するのではなく目録を読み、その目録を私に渡して欲しい、と述べられた。

続いて次の意見があった。

- ・ 岡田会長が言われているマイスターを500名作りたいたいという思いがあるが、現在の参加者の受け入れ態勢では10年かかる。少しでもたくさんの選手の申込みを受け入れてもらえるようにやり方等も併せて検討する必要がある。
- ・ 学科だけを何日か前に行い、実技については後日行えば多くの選手を受け入れられるのではないか。
- ・ 当日は兵庫県トラック協会の事務局が見学に来ていたが、兵庫県も行いたいと言っていた。
- ・ 兵庫県の事務局は役員が中心となり動いていたことに感心していた。恐らく役員が中心となって動いているのは全国でも滋賀県だけである。
- ・ せっかくゴールドマイスターを獲得されたのだから、何か特典はないのか？例えば、所属事業所内でも良いがリーダーとして活躍できるようなシステム作りが出来れば良い。
- ・ せっかくゴールドマイスターを取っても後は事業者任せである。
- ・ ゴールドマイスターは、事業者内だけでなく協会が行う事業などの場で何か役に立ってもらえるようにしてはどうか。
- ・ マイスター・ゴールドマイスターを取った事業者には、例えば「おうみ路」をたくさん渡し荷主にPRすることは今すぐでも出来ることである。そして、それ以外に今後じっくり考えてマイスターを取ったメリットを考えていけば良い。マイスター・ゴールドマイスターを取得したメリットについては、この2つの方法でメリットを考えていってはどうか。
- ・ マイスター・ゴールドマイスターを取ったドライバーが乗るトラックにマイスター・ゴールドマイスターのステッカーを貼ってもらっているのも一つの優遇措置でもあるしPRでもある。
- ・ 展示コーナーについては、今後も出品者だけにお任せするのか？それとも協会と出品者、双方が検討していくのか？それよりも先に出品者に今以上の協力をしてもらえるのか確認する必要がある。

次年度の実施時期について次の意見があった。

- ・ 実施時期は協会の総会が概ね5月26日であることから、総会后しか動けない。

この意見に対し岡田会長は、協会事業は新年度に入る4月からスタートさせたいので今後の正副会長会議で話をしていきたい、と述べられた。

続いて、もし総会の日よりも早くこのコンテストが実施出来るのであれば、梅雨に入る前のゴールデンウィーク後で会場となるクレフィール湖東が空いていればその時期に行うのが一番良いのではないかと、この意見もあった。

(2) 広報について

中西部会長より資料2-1に基づき新聞広告・協会ホームページを使っただけの広報及びクイズ並びにアンケート結果について報告があり、続いて事務局・杉本課長から補足があった。

これについて次により意見があった。

- ・ 初めて滋賀県トラック協会のホームページを見ましたと書いてある。一般の人に協会ホームページを見てもらうだけでも、又協会ホームページを知ってもらうだけでも効果があったのではないかと。
- ・ アンケート内容を見て、今までは新聞広告など一方的な広報であったが一步進んだ広報が出来て大変良かった。
- ・ 賞品は既成の図書カードであるが、協会オリジナルの図書カードを作れないか？
- ・ この広報のアイデアは松田副部会長の発案である。大変良い広報が出来たと思う。
予算の関係上、この広報は新聞の滋賀版に掲載したので、クイズの応募者は143名中、140名が県内からの方であり県外からは3名であった。
図書カードなどはまとめて作れば安くなるので協会オリジナルの図書カードやクオカードを作ってはどうか。
- ・ 「交通事故防止総決起大会」、「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」、「物流セミナー」などの事業の参加記念品として使えるようにまとめて協会オリジナルの図書カードを作ってはどうか。

岡田会長から、今回のエコ・セーフティドライブコンテストの広報は良かったが、今後、「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ」はプレス発表を行い、様々な取材で各新聞記者との繋がりも出来てきたので強力にPRしていきたい。又今回の広報活動やアンケート結果からもわかるようにホームページの積極的な活用を行ってほしい、と述べられた。

(3) ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ(10/17)について

岡田会長から前回実行委員会でバス業界・タクシー業界の参加協力の話をしたが今年で3年目となるが3年間は当業界だけで行いたいという思いもあり、今年度は当協会だけで行いたい。当初から1000人を集めたいという思いがあるので今年度についても、参加者に対する交通費及び昼食代として協会から1000円、支部から1000円の計2000円の支出をお願いしたい、と述べられた。

続いて、出席委員から、今後、ボランティアや他業界からの参加をしてもらうのであれば、駐車場スペースの問題が出てくる、との意見があった。

次に、支部の担当エリア割について、各支部長から次の希望があった。

- ・ 大津支部(田中支部長) 平成20年度か21年度のエリア割どちらか。
- ・ 湖南支部(中西支部長) ”
- ・ 甲賀支部(松田支部長) ”
- ・ 湖東支部(渡辺支部長) 平成20年度・21年度と同じエリアであり今年度も同じエリア割
- ・ 彦根支部(鈴木支部長) ”
- ・ 湖北支部(小林支部長) ”
- ・ 湖西支部(田中支部長) 平成20年度か21年度のエリア割どちらか。

その他、次の意見があった。

ボランティア団体の参加等の問題もあるが、協会では大きな事業をいくつか行っているが何故この「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ活動」だけに参加費が出ているのか？この問題を先に解決する必要があるのではないか。

これに対し、岡田会長は「交通事故防止総決起大会」や「総会」などは参加記念品の形で参加費が出ている。この事業は1000人以上の参加者が休日にわざわざ遠いところまで出てもらうので交通費と昼食代として協会と支部を併せて2000円を渡している、との発言があった。

続いて、次の意見があった。

- ・ 以前にも話したが、もし協会で1000円が出なくても、せっかくの休日に出てもらったということで、湖北支部でその分を負担し2000円を参加者に支給するつもりである。彦根支部でも同様の発言をされていた。又以前、事業として行うので参加費を支払うことはおかしくないという意見もあった。

- ・ 日もあまりないので、参加費を出す、出さないを今日決める必要がある。過去2回は事故もなく成功してきた。今年度もボランティア団体を入れないで協会だけで行ってはどうか。

以上の意見を踏まえ、岡田会長は、先に述べられたように、3年は協会だけで行いたい。他の団体等に参加してもらおうと事故の問題も大きくなるし、保険代のことも出てくる。もう少し認知され、様々な意見が出てくればボランティア団体等にも声をかけたい、と述べられた。

また、次の意見があった。

- ・ 各支部のエリア割も先程、各支部長が言われたとおりとし、今年度を含め3年続けて協会会員で行ってはどうか。
 - ・ 今年は昨年どおり協会だけで行い、次年度以降は県やボランティア団体と打合せを行い検討をしていけば良い。
 - ・ 参加費は活動エリアまで行く交通費と考えれば良いし、休みの日にこの活動を行うのでこの事業はボランティアと言って良いと思う。
 - ・ 事業として行うので参加費が出て良い。
 - ・ 小さな子供は親の後ろを歩いているだけである。この様な状況でも小学生以上であれば参加費を支払っている。
 - ・ この事業はウォーキングをしながらゴミ拾いをするのが趣旨である。親がゴミを拾う姿を見るのも小さな子供には教育の一貫となるのではないか。
 - ・ 湖北支部では子供達はゴミを拾うことを競争している。子供達はみんな一生懸命ゴミを拾っている。一昨年度は拾ったペットボトルでクリアファイルを作り、新入学児童に配布をしたが、学校で子供が自分もこの活動に参加したことを報告したら、同級生も参加したいと言ったが、会員の家族でないので断ったくらいである。
 - ・ この活動は内向けの教育として良いことである。参加したドライバーや子供にとって情操教育にもなる。
- ・・・等の意見があり、次のことが決定された。
- ・ 参加者は会員、従業員とその家族とする。
 - ・ 交通費と昼食代として参加費2000円を参加者に支給する。
 - ・ 各支部の活動エリア割は先ほどの各支部長の希望を参考に検討する。

最後に、岡田会長は、特に「レークさがわ」近くの湖周水保町の信号の運河を隔てた道からトラック協会まではたくさんゴミが落ちており、琵琶湖大橋取付道路の水保町中野の信号までの間のゴミ拾いも併せて検討して欲しい、と述べられた。

(3) その他

事務局から協会執行部出席による支部長会議を11月27日(土)15時30分もしくは16時からホテルニューオウミで開催したいので予定をお願いしたいと述べ、岡田会長から会議内容について補足があった。

次回実行委員会

日 時 平成22年8月24日(火)14時00分~

場 所 滋賀県トラック総合会館

当日13時より「広報部会」と「ぐるっと・びわ湖・クリーンアップ部会」は事前に会議を行う。